



四国地方労働組合生産
性会議 議長

西川 啓二

当会議については、
労働組合自らが生産性
運動に取り組む四国の
機関として、1959
年（昭和34年）6月に
四国地方労働組合生産
性企画実践委員会が設
立され、1968年に
四国地方労働組合生産

性会議（四労生）と改
称し、現在に至ってい
ます。企画実践委員会
設立以降、50余年を経
ており、その歴史の重
みを改めて感じるとと
もに、今日まで四国に
おける労組生産性運動
の発展に
ご尽力さ
れた諸先
輩方、関
係者の方

四国における労組生産性運動について

四国地方労働組合生産性会議の活動紹介

々には心より敬意を表
する次第です。
昨今のわが国は、グ
ローバル化による競争
の激化、少子・高齢化
の進展、巨額の財政赤
字など、極めて困難な
課題を多く抱えています。

また、経済について
は、政府の経済対策や
日銀の金融緩和による
円安の進行などによ
り、株価や景況マイ
ドは大幅に改善してい
るものの、実体経済の
回復は限定的なもの

り組む生産性運動は、
単に生産性を高めると
いうことだけではな
く、「労働の尊厳」を
守る運動、すなわち、
労働者の働きがい・生
きがい、雇用安定、公
正分配などの実現を目

当会議では、こうし
た認識のもと、今年度
は、(1)喫緊の労使課題
をテーマとして労働組
合の役割や労組活動の
あり方について研究討
議する「研究フォーラ
ム」、(2)労働組合の先

なっています。今後は、
構造改革や規制緩和と
併せて新たな成長戦略
の断行により持続的回
復軌道に乗せていくこ
とが強く求められてい
ます。

指す運動であり、厳し
い経営環境の今こそ、
三原則に基づく生産性
運動の意義と重要性を
再認識し、労使が一体
となって、その取り組
みをより一層強化して
いくことが極めて重要

研究会」、(3)四国内の
労働組合を訪問し、情
報・意見交換と相互研
鑽を行う「実践研究会」
などの活動を展開し、
四国の労働組合の活性
化と労組生産性運動の
裾野拡大に貢献してい
く所存です。

情勢の中、当会議が取
得した社会・経済
です。